

図画工作 鑑賞学習の充実に向けて
作品へ新たな視点を
児童の見方や感じ方を広げる指導の工夫



【鑑賞教育の現状と課題】

国の調査では、児童が鑑賞活動に興味をもつ機会が少なく、表現活動に偏りがちであることが指摘されています。
また本研究の調査においても、日本や世界の作品を目にする機会が不足している児童が44%にのぼるなど、作品鑑賞の充実が課題となっています。

【研究の概要】

小学校の図画工作科における**鑑賞活動**で、児童が鑑賞作品を通じて、自分の**見方や感じ方を広げる**ことを目指した**指導方法**を研究しました。

【指導のポイント】

指導のポイントは次の3点です。



【①視点の可視化】

作品の関心の高い場所にシールで印を付け、**視点を可視化し、作品を客観的に把握**できるように支援します。

【実践例】

授業の冒頭や終末で、児童が鑑賞作品の特に**興味を引かれた部分にシールを貼ります**。自分の視点を可視化し、他の児童と共有することができます。これにより、児童は他人の見方や感じ方を視覚的に把握でき、自分の見方や感じ方を広げること、鑑賞への興味を高めることが期待されます。



【②焦点を絞って作品鑑賞】

鑑賞中や制作中に**作品の認識しづらい場所**を、シールの位置から確認し、ICT機器を活用しながら、**焦点化した鑑賞を支援**します。

【実践例】

児童にとって認識しづらい作品の場所をシールから特定し、焦点化した鑑賞を支援します。**鑑賞活動中にシールの位置を確認し、ICT機器を活用しながら、普段見逃しがちな細部を取り上げる**ことで、児童の新たな発見を促すことができます。



【③ICT機器で作品鑑賞】

鑑賞作品をいつでも見ることができる環境を作り、**作品の形や色などの感じをより細かく鑑賞**できるよう支援します。

【実践例】

ICT機器を活用して、児童が鑑賞作品をいつでも**好きな時に、好きな視点で見ることが**できる環境を整えます。これにより、作品の細部にまで注意を向けることができます。例えば、作品の特定の部分を拡大することで、色使いやテクスチャーの違いに気づき、より見方や感じ方を広げる鑑賞が可能になります。

【研究の成果】

授業後、**94%以上の児童が見方や感じ方の広がりを実感**。

児童の**目新しさや物珍しさを求める見方や感じ方を広げる**効果を示唆。

児童の**鑑賞へのポジティブな感情を引き出す**効果を示唆。

詳しくは研究報告書をご覧ください
(QR)